

教育研究所だより



No.245 令和7年12月17日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育研究センター 愛称:エルセンター 3階)

TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237

E-mail:kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp

HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyl_index.html

2学期の研修報告



○第3回守山市初任者研修

令和7年9月25日(木)、第3回守山市初任者研修を実施しました。

午前は、明富中学校 矢谷 愛希 教諭による社会科の授業を参観し、授業研究会を行いました。授業者による本時の反省、質疑応答ののち、成果と課題、改善策をグループで話し合い発表しました。その後、学校教育課 浅野 智子指導主事から授業づくりのポイントについて指導助言をいただき、教科指導や支援のあり方の知見を深めることができました。

午後は、保育園・幼稚園・こども園所属の初任者も参加して、花園大学 川島 民子先生より、「特別支援教育のあり方」についてのご講義をいただきました。「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と捉えることで支援の仕方、背景を考える見え方が変わることを学びました。また、グループでインシデントプロセス法を使って支援の仕方を考え、子どもたちの背景を探るためにはどのような視点が大事か実践的に学びました。



【初任者の感想(一部抜粋)】

- ・ つい大人の都合で考えてしまうことが多いが、困っているのは子ども自身なので、子どもの視点に立って、何に困っているのかを知ろうとする姿勢が大切だと学んだ
- ・ クラスの子どもの対応に悩んでいましたが、子ども自身が「困っている」という視点到気づいていませんでした。これからは、子どもの目線に立った対応を心がけていきます。
- ・ インシデントプロセス法を行いました、短い時間で「大人の目線」「子どもの目線」で考える良い機会ができました。これからも実践していきたいです。

○ステップアップ研修・2年次研修・ボトムアップ研修

3学期も研修で学んだことを活かして、授業づくり、学級づくり、子どもたちとの関係づくり等に励んでいただきたいと思います。授業を提供してくださった先生方、ありがとうございました。



- ・ 皆さんに似たような課題を持っていると感じた。しかし、一言ひと言には、もっと良くしたいというエネルギーを感じて、凄いいました。
- ・ 2学期の課題を交流し、悩んでいるのは自分だけではないのだと思えた。
- ・ 仲間と、たくさん話すことは価値があると思いました。

第2回 2年次研修 令和7年10月10日(金)

○2学期の課題 ○早く帰るための工夫



第4回ステップアップ研修 A

令和7年11月13日(木)

(物部小学校)

○先輩の授業から学ぶ

物部小学校 6年2組

金城 里奈 教諭(社会科)

「明治の新しい国づくり」



- ・児童が自ら考え「なぜこうなったか」を考
る時間と共有する時間をしっかりとられて
いた。
- ・グループ活動を取り組みやすい発問や環
境をつくる方法を知り、実践したいと思っ
た。
- ・毎回の授業の積み重ねがいかに大事かを
感じる事ができた。児童との信頼関係を
感じた。

金城先生の授業からの学び

- ・子どもたちの発言を拾って、広げたり、補足したりしているので、全員が学びに参加している。
- ・意見交流の場で、タブレットを使って効果的にまとめられていた。
- ・先生の指示に対して、子どもたちがすぐに反応し、建設的な議論を深められていた。普段からそのような指導を積みあげることが重要であることがわかった。
- ・机間指導で、ほめたり助言したりして、子どもの発言を引き出せていた。

第4回ステップアップ研修 B

令和7年11月21日(金)

(守山小学校)

○先輩の授業から学ぶ

守山小学校 2年1組

岸田 文香 教諭(道徳科)

・教材名

「くりのみ」



- ・言葉かけ一つ一つに意図があり、目的が
あって授業が構成されていると感じた。
- ・映像を流したり、風の音を鳴らしたりする
ことで、子どもたちのわくわくする気持ちを
膨らませていると感じた。
- ・教材を子どもたちの心の中に落とし込む
方法が勉強になった。また、自分は授業の
構成をしっかりと考えられていないと反省し
た。

岸田先生の授業からの学び

- ・低学年の子どもたちでも話の流れが入ってきやすいように、絵や言葉の配置にまで考えられた板書であつた。
- ・授業前や授業中に机上の整理をすることで、今やることに目を向ける支援をされている。
- ・ロールプレイを取り入れ、みんなで合図をさせたり、先生がインタビュアーになったりすることで、子どもたちが進んで授業に参加したいと思える雰囲気づくりがされている。

第4回 ボトムアップ研修

令和7年11月20日(木)

○実践報告

・「めたふ」の授業づくり

・夏期選択研修で学んだこと

を活かした実践について

【教育相談】

【学級づくり】

【道徳】

【特別支援教育】



- ・グループで実践や学んだことを交流できて、
様々な角度、視点から考えることができました。
守山市の授業づくりを学び、これから目
指す子どもの姿から授業を考えていくことを
忘れずにしていきたいです。
- ・「めたふ」の授業づくりを進めていくにあつた
て多くの教員が児童生徒の目指すべき姿
を意識できるようになっていると感じた。
- ・いろいろな先生方の実践を知ることで、今後
の自分の授業づくり、学級づくりに活かせる
ヒントがたくさんありました。

J-3

11/25(火)

すべての子どもにとって楽しい保育のあり方
～造形あそびの視点から～

元小学校長 大西健之 氏

○造形遊びについて、自分の中での解釈をアップデートしていかなければいけないと強く思いました。子どもたちにとって、楽しむことのできる環境づくりや、かかわり、きっかけを作ることができるように工夫していきたいです。

○描画や版画を保育に取り入れる時に、「これでいいのかな」と悩むことがありますが、子どもの内側からの表現を大切にするという話を聞いて、それぞれのびのびとした表現そのものでいいのだということを感じました。今後の保育で大切にしていきたいです。

○とても勉強になりました。版画が難しいという印象でしたが、楽しく遊べばよいのだと思いました。この思いを子どもにしっかり伝えたいと思います。



「指導力向上に関する調査研究」 中間報告

★テーマ 新たな不登校を生まない学校における視点を考える
～アセスメントの在り方を探る～

★研究の目標

欠席日数等のリスクに応じた実践を通して、適切な支援や教育相談体制の向上が図られることで、新たに不登校になる児童生徒数が減少することを目指す。

★研究の方法および経過

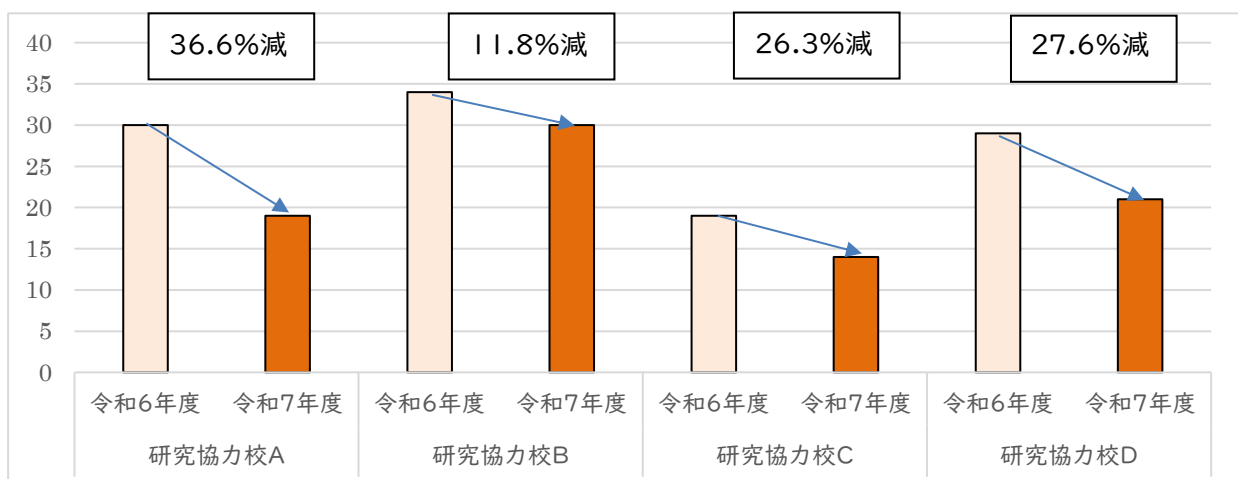
研究員が研究協力校 A において、以下の実践を行う。

- ・累積欠席日数 5 日⇒研究員と担任が該当児童の情報共有および今後の方向性の確認を行う。
- ・累積欠席日数 10 日⇒詳細な情報収集およびアセスメント、SC・SSW等の専門家を含めた情報の共有および今後の方向性の確認を行う。

★研究の検証方法

- ・累積欠席日数 10 日以上欠席者における新規（前年度欠席日数 30 日未満）児童の人数を令和 6 年度と令和 7 年度で比較する。

10 日以上欠席者における新規（前年度欠席日数 30 日未満）児童の人数【令和 6、7 年度比較】



- ・研究協力校 A は、新規児童の人数が令和 6 年度に比べて 36.6%減と他の研究協力校よりも減少がみられる。引き続き、研究を進め、研究結果をまとめる予定。



第15回生徒会サミットを開催しました



令和7年12月6日(土)、守山市生涯学習・教育研究センター(エルセンター)に市内6中学校の生徒代表者が一堂に会し、第15回生徒会サミットを開催しました。

今回のサミットの目標は、「相互理解を深めるとともに、これからの1年間、生徒会サミットとして何を目指に取り組んでいくのか」の合意形成を図ることです。

まず、「先輩に学ぶ」と題し、元立命館守山中学校生徒会長で現在は立命館守山高校1年生 山中 萌衣さんから、体験談を聞きました。小学校時代はどちらかというと人見知りだったという山中さん、一つ殻を破るごとに少しずつ自信を深め、人前で話すこともできるようになってきたそうです。生徒会長となつてからは「主体的に取り組んでいく!」ことを念頭に体育祭の運営を生徒会で担うなど、新しいことにどんどん挑戦していったそうです。「生徒会活動は、プレゼン資料の壁紙で使用した『マリオ』のように、いろいろな困難にみんなで立ち向かい目標を達成するようなもの、ぜひみなさん頑張ってください。」と激励をいただきました。最後は「拍手の練習」で締めくくり、みんなで支え合う大切さを教えていただきました。参加した生徒からも自分たちで「新しいことに挑戦していく先輩の話は、とても印象深かった」と主体的に取り組む決意と意欲を高める時間となりました。



次に、「じゃんけん列車」など当番校の守山北中学校生徒会による工夫を凝らしたアイスブレイクが行われました。開会行事から「先輩に学ぶ」研修までは、緊張が見られた各校からの参加者でしたが、ようやくこのアイスブレイクで笑顔が見え始め、打ち解ける雰囲気が広がりました。その後の、各校からメンバー紹介や活動報告では、我が家のペット自慢もあり、すっかり緊張も和らぎました。そして、グループに分かれていよいよ本題である、最上位目標について討議が行われました。山中さんの話に感銘を受け、「New Style」や「可能性は無限大」など自分たちで新しい時代を創造しよう、どのグループからも「自分たちが主体者として取り組んでいくのだ!」という決意あふれる目標が提起されました。時間の経過と共に話し合いは深まり、活発な議論が行われました。

時間をかけ議論し合意形成した最上位目標は、「未来創生 ～No one left behind～」と決定しました。この目標の「未来創生」には、サブタイトルにある「～No one left behind～」(誰一人取り残されない)、そんな素晴らしい学校や地域そして社会を、私たちが主体的に行動し創っていかうという思いが込められています。

また、今回のサミットにも、青少年育成市民会議の方にもご参加いただきありがとうございました。子どもたちにとって、これからの活動意欲を高めるたいへん充実した時間となりました。今後は、この目標に向けて、私たちはどのような活動に取り組んでいけばいいのか、それぞれの学校で考えて取り組みを実践していくこととなりました。来年度6月実施予定の、第16回生徒会サミットで実践交流し、生徒会サミットとして何に取り組んでいくのか、合意形成を図りたいと考えています。



これからの1年間、市内6中学校が協力してこれらの取組を推進してくれることを期待しています。

<合意形成事項および今後の活動について>

(1) 最上位目標 「未来創生 ～No one left behind～」

この目標の「未来創生」には、サブタイトルにある「～No one left behind～」(誰一人取り残されない) そんな素晴らしい学校や地域そして社会を、私たちが主体的に行動し創っていかうという思いが込められています。

(2) 最上位目標を達成するために、どのような活動が私たちにできるのか、具体的活動を考え各校で取り組んでいく

(3) 次回のサミットは、目標を達成するために行った各校の実践活動をもとに、生徒会サミットとして活動していくことを決定する。